

巻頭言

昇降機・ビルシステム特集に寄せて

Foreword to Special Issue on Elevators, Escalators and Building Systems



伏木 毅 Takeshi Fushiki

執行役員 ビルシステム事業本部 副事業本部長

Corporate Executive Group Senior Vice President, Building Systems Group

2023年から、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)による制限が緩和され、各国経済活動が再開、活性化している一方で、ウクライナ情勢やイスラエル・ハマス紛争をはじめとした世界的な情勢不安、急激な為替変動、素材・人件費・物流費の高騰、中国不動産の不況等、世界的に外部環境が大きく変化してきています。日本国内では、少子高齢化による人手不足が深刻化しており、特に建設業界での人材不足は喫緊の課題となっています。このような環境下、三菱電機はビル事業を通じて社会課題の解決を推進するため、安心・安全・快適な製品・サービスの提供に加えて、省エネルギー化・省人化・省力化を実現するソリューション技術の開発を進めています。

近年ZEB(net Zero Energy Building)の要望が拡大している中、当社はメーカー初のZEBプランナーとして多くの実績を持っており、ZEBに必要な各種設備の選定・納入から運用開始後の省エネルギー支援サービスまでをワンストップで提供し、ビルの省エネルギーの実現に貢献しています。ビルマネジメント領域では、当社は以前からビルの空調／熱源／受変電／照明などの設備を監視・制御する中央監視システム“Facima BA-system”を発売してきており、多様化する事業環境、IT環境に対応するため拡充開発を継続しエネルギーソリューションに貢献しています。また、ビル管理者の人手不足が深刻化している中小規模ビル領域では、ビル設備の監視制御、エネルギー管理を一括で行う“BuilUnity”機能の拡充開発を実施することで、省人化やZEB運用支援機能を実現し、カーボンニュートラルに貢献しています。

昇降機関連では、エレベーターはビルや公共機関での縦の移動設備としてなくてはならないものであり、安心・安全はもちろんのこと、利用者に快適に使用してもらうこと、かつ、ビル内では建築の一部として利用者の目に留まるため、建築デザインとの融合、親和性が重要となります。当社は、これまで追求してきた安心・安全・快適を踏襲し、さらに“街、建物、人とつながる”をコンセプトとして標準形エレベーター“AXIEZ-LINKs”を投入してきました。それに加えて利用者への開放感のある眺望の提供、建築のデザイン性への賑(にぎ)わいや躍動感を与える効果を持つ“プレミアムシースルーかご室”を開発し、建築計画の幅を広げて、利用者の快適性の向上を実現しています。省人化・省力化の観点では、エレベーターの据付方法である足場なし(WOS: With Out Scaffolding)工法の拡充開発によって、これまでは必要であった仮設動力の設置を不要にして、据付期間を短縮することで省人化を実現するとともに、エレベーターの安定的な提供、エレベーターサービスの早期利用を可能にしました。また、エスカレーターに関しては、エレベーターと同様に公共機関を中心に長期にわたって安心・安全・快適に使用してもらうために定期的な保守・修理工事が必要ですが、その期間エスカレーターを停止することは利用者の利便性の大幅な低下や施設の売上低下につながります。今般、従来機種に比べて大幅に保守省力化を実現した“uシリーズ”エスカレーターを投入することで、エスカレーターの停止時間の削減を可能にしました。

今後、更に劇的に社会環境が変化していく中、様々な社会課題を解決するためにビルソリューションプロバイダーとして、これまで培ったビルシステムやコンポーネント、設備データを統合し、新たなソリューションサービスとして提供することで、ビルや都市の様々な暮らしの空間での顧客の課題解決に貢献していきます。